



## 1. 職業奉仕について

RIは、職業奉仕に関する声明の中で、「職業奉仕は、ロータリークラブとクラブ会員両方の責務である。クラブの役割は、模範となる実例を示すことによって、また、クラブ会員が自己の職業上の手腕を発揮できるようなプロジェクトを開発することによって、目標を実践、奨励することである。

クラブ会員の役割は、ロータリーの原則に沿って自らと自分の職業を律し、併せてクラブ・プロジェクトに応えることである。」と述べています。

ところで、職業奉仕は英語の Vocational Service を訳したのですが、この Vocation という言葉は“神から授けられた仕事（天職）”という意味を持っています。昨今の企業における事件を見ていると、社会的責務を忘れ、儲かればいい、自分の会社だけ良ければいい等々の職業奉仕の理念を全く理解しない事案が多く見られるようになってきました。

もう一度見つめ直してみてもう一度は如何でしょうか。

職業奉仕は、一朝一夕に出来るものではありません。ロータリークラブ誕生から100年を超え、ロータリーの奉仕活動が第二世紀へと進む中で、ロータリークラブおよびロータリアンが高度な道徳的水準を維持し、それを実践することにより、更なる発展が期待出来るものだと確信しております。

是非とも、ロータリークラブとロータリアンは仕事を通じて社会に貢献するためにも、高潔な職業奉仕活動を推進していただきたいと思っております。

## 2. 米山記念奨学事業について

ロータリー米山記念奨学事業は、日本全国のロータリークラブ会員の寄付金を財源として、奨学金を支給して支援を行う事業で、その運営は民間の奨学財団である（財）ロータリー米山記念奨学会が行っています。設立は1967年、今から約44年前で、これまでに世界119ヶ国、16,389人（2011年7月現在）の外国人留学生を支援しています。

さて、事業そのものの歴史は50年以上前で、日本のロータリーの礎を築いた米山梅吉氏の功績を記念して、東京ロータリークラブによって「米山基金」が設立されたことによります。日本のロータリーが国際ロータリーに復帰して3年後、米山梅吉氏が死去してから6年後のことです。

米山記念奨学金の創設の目的は、「日本が再び戦争の過ちを繰り返さない」という誓いと「平和日本」をアピールすることにより、「世界の懸け橋」となることを願ってこの制度が出来上がりました。

また、ロータリー米山奨学金制度の特徴は、経済的支援のみならず、「世話クラブ・カウンセラー制度」を設けて、奨学生の精神面のケアも図っていることです。奨学生には毎月1回世話クラブの例会に参加する義務が課せられており、奨学金はそこで手渡しされます。「世話クラブ・カウンセラー制度」は、国費や他の奨学金制度には無い制度として、他団体、行政機関などからも注目されております。

本年度の私の方針としまして、皆様には1人当たり2万円のご寄付をお願いしておりますが、このすばらしい制度が継続するためにも、多くの会員の方々のご支援をお願いいたします。